

第4回西区まちづくり懇話会 議事録（要旨）

I 日時：平成29年3月15日（水）午後7時～9時15分

II 場所：西区役所3階健康センターホール

III 出席委員（全17名）

永松会長、河村副会長、塚本委員、岩本委員、上野委員、中村委員、下田委員、末次委員、子出藤委員、柿本委員、内藤委員、林田委員、益田委員、大森委員、甲斐原委員、江藤委員、金森委員

IV 西区長挨拶

（白石区長）

開会にあたり一言申し上げます。お忙しい中にご出席いただき誠にありがとうございます。

本日は、11月下旬から3月初旬までに実施したまちづくり事業の報告、区役所再編や来年度のまちづくり懇話会等を議題にあげている。昨年4月の着任以降、様々な事業に関わってきた。3月の西区フェスタは、午後からの雨天が残念ではあったものの、来場者アンケートをみても区民の参加が増え2,400人もの来場があり嬉しく感じている。ウォーキング事業においては、どれも受付直後に定員に達し、市民や地元の方の関心の高さを実感した。来年度の事業についても、懇話会での意見をいただきながら、さらに賑わいを増すよう努力していきたい。

また、本日は、現体制での最後の懇話会となるため、委員の皆様から会に対するご意見・ご感想などをいただき、我々の励みにしてまいりたい。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

V 議事要旨

1 議事 <進行：永松会長>

（1）第3回西区フェスタ 報告と振り返り

（永松会長）

このメンバーで懇話会をするのは、今日で最後となる。会の最後では、皆さんから感想などもいただきたいのでよろしくお願いします。

まず、最初に第3回西区フェスタについて、事務局からお願いします。

（総務企画課長）

まちづくり事業報告書「第3回西区フェスタ～健康と復興～」に沿って説明。

（永松会長）

西区フェスタには、委員の方々も出展者として参加されているので、一言ずつ感想などをお願いし

たい。

(塚本委員)

竹馬の伝承遊びコーナーに関わったが、子どもたちの関心が高く意欲的に参加してもらった。父母の方も一生懸命取り組んでもらい、竹馬 40 脚はすべて完配した。喜んでいただけて良かったし、今後も継続すると良いと思う。

(岩本委員)

伝承遊びで、近所の廃材や安価な材料で木工体験の指導を行った。糸ノコやバーナーなども使い、親子で熱心に取り組んでもらえたのが良かった。昼過ぎには、材料はすべて使いきった。

(上野委員)

伝承遊びコーナーは大変人気があり、親子で楽しんでもらった。親御さんも竹馬の乗り方を知らず、一生懸命取り組まれた。ぜひ継続した方がよい。

(中村委員)

西部環境工場イベント「蜜蝋キャンドル作り」などの指導と伝承遊びコーナーの手伝いを掛け持ちした。環境工場のイベントも賑わっており、区役所と工場の距離について苦情もあったようだが、スタンプラリーによる連携があってよかった。

(大森委員)

農産物販売をしたが、去年に比べて人出も多く売り上げも増加して良かった。知人は、環境工場内の見学ツアーに初めて参加し大変満足していた。

(下田委員)

伝承遊びの手伝いをした。一番感じたのは、世帯間交流が図れたこと。親子の参加から西高校生ボランティアも加わり、良かったと思う。

(総務企画課長)

今年初めて西高校にボランティアの依頼を行ったところ、8名の学生に参加してもらった。西高校では太鼓や薙刀演舞などの協力をいただけるようで、今後連携していけたらと思う。

(岩本委員)

懇話会委員の5人の会長たちが率先して役割を担っていただき、本当に感謝している。学生ボランティアも糸ノコの手法が分ると子ども達に一生懸命、指導をしてくれて良かった。

(永松会長)

西区フェスタは、前年の改善点を修正しながら地域や学生へと参加が広がっており、西区民による手作り感のあるイベントとして少しずつ進化しているようだ。委員の感想にもあったように、世代間交流も大切になってきているので、フェスタが幅広い世帯間交流の貴重な場としても活用されていくとよいと思う。ご協力いただいた委員の皆様、本当にありがとうございました。来年以降もよろしく申し上げます。

(益田委員)

健康まちづくり報告会に参加し、たいへん楽しめるものだった。ただ、ネーミングが「報告会」と堅苦しいので、誘客を高めるために楽しさがイメージできるような名前に変更してはどうか。また、来場者アンケートとスタンプラリーが台紙に表裏に作成されていた。アンケートとスタンプラリー用紙を分離し、アンケート回収ボックスを設置すると、スタンプラリーに参加しない大人の意見も拾え、アンケートの精度が上がると思う。予算額 3 1 0 千円に対し決算が 4 2 0 千円と 3 割増になっているのはなぜか。

(総務企画課長)

予算額による企画コンペを行い、業者を選定した。その後、詳細な仕様を詰める際に増額したものの。

(永松会長)

その他にご意見はないか。それでは、次の議題に移る。

(2) 平成 28 年度まちづくり事業 (報告)

(永松会長)

今年度のまちづくり事業の報告について、順次、事務局より願います。

① 金峰山系エリア魅力発信事業

(河内まちづくり交流室長)

まちづくり事業報告書「オレンジウォーク in 河内 2016」に沿って報告

② 漱石記念年事業「草枕の道ハイキング」

(総務企画課長)

まちづくり事業報告書「夏目漱石「草枕の道」ハイキング」に沿って報告

漱石記念年事業「オレンジカクテルナイト」

(総務企画課長)

まちづくり事業報告書「漱石記念年事業 (オレンジカクテルナイト事業)」に沿って報告

③四季をとおして花のあるまちづくり事業

(総務企画課長)

まちづくり事業報告書「四季をとおして花のあるまちづくり事業」に沿って報告

④健康まちづくり報告会

(保健子ども課長)

まちづくり事業報告書「平成 28 年度（第 5 回）健康まちづくり報告会」に沿って報告

⑤上熊本エリア魅力発信事業

(花園まちづくり交流室長)

まちづくり事業報告書「西区上熊本エリアまちづくり事業「オンリーワン体験ウォーキング in 花園」に沿って報告

(永松会長)

ここまでで、質問やご意見はないか。

(甲斐原委員)

参加者数の表記について、スタッフ数まで含める事業とそうでないものがあるので、統一した方が評価しやすいと思う。上熊本魅力発信事業について参加料の記載がないが、発生したのか。また、西区フェスタの決算額について、他の事業は予算額の範囲内で執行しているのに、この事業だけ予算額との乖離が大きいのではないか。

(永松会長)

参加者数の表記は、スタッフ数を含まないのが常であるので、事務局においてそれで統一を図るようお願いしたい。予算について、事務局より補足説明があるか。通常は、予算額の範囲内で実施するのが原則であるが、今年は震災の影響で事業が中止となり予算に余剰が出たため、西区フェスタの額を増額することができたのではないか。今年度限りの特例だと理解しているが。

(総務企画課長)

会長の見解どおりである。

(内藤委員)

地震の影響で予算を超えたとの説明であるが、企画コンペでありながら実施額が 100 万も上回ると他業者からクレームが発生する。越えた分を別件として再コンペすべきものではないか。

(永松会長)

おそらく、コンペでは主要な基本的仕様を行う業者を決定することが論点で、増額分は基本骨格を維持しつつ新たな仕様を上乗せした分であるというふうに理解している。ただ、苦情の可能性もあるということなので、事務局はその点も意識して今後取り組んでいただきたい。

(総務企画課長)

注意してまいる。

(河内総合出張所長)

「オレンジウォーク in 河内」においても決算額が予算額を上回っているが、これは、参加者が定員を超え、参加料と協賛金が増額となったもの。

(花園まちづくり交流室長)

上熊本魅力発信事業においては、参加費は無料とした。理由は、多くの地元スタッフが協力していただき、参加者の方へ「おもてなし」したいという思いから。

(甲斐原委員)

他のウォーキングは、参加料をきちんと徴収して実施しているのに、この事業だけ市の予算で丸抱えとは他とのバランスからおかしいのではないか。

(総務企画課長)

河内のウォーキングは、過去の実績から参加料を設定しても集客が見込まれるが、上熊本ウォーキングは、まだ 2 回目で参加料を徴収すると集客できないのではないかという懸念があったもの。事業のあり方として受益者負担を求めるのが適切であると認識しているので、今後、目指してまいる。

(永松会長)

基本的には、参加料を同様に徴収することが公平性の観点から望ましいが、参加者が殺到する事業と逆に関心が低く誘引を算段しなければならぬものがあり、上熊本の方は開催間もないので、定員割れの懸念があったということである。ただ、甲斐原委員のとおり、募集 2 日目で満員となっているので、今後、参加料の設定を勘案しながら、魅力発信により市民の関心を高めていく時期だろうと思う。

(甲斐原委員)

そういう面では、オレンジカクテルナイトは素晴らしいと思う。限られた予算の中で一般参加が 4 名ではあるが、チャレンジして魅力を発信し若い世代へと活動の広がりが見られ、報告書でも良い方向性が伺える。

(柿本委員)

今までのまちづくりは、イベントが多く点の取組みになっているようだ。南区川尻校区では「春の物語」とし

て、和菓子屋や寺院、酒蔵をつないだ地域の魅力を物語りとして発信されている。西区でも、ウォーキングなどの魅力発信を行う際には、ストーリー性を持たせては。ひとつのキーワードとして「ヘルスプロモーション、健康づくり」ではないかと思う。

(永松会長)

まちづくりは、最初は点で始め、それがだんだんと線につながっていくもの。西区フェスタでもそうであるように、始めベーシックなものが徐々にオリジナルが加わり彩りが増していくように、次第につながりが出来ていくのだと思う。柿本委員のとおり、ストーリー性が地域の魅力を伝えていくものであるため、念頭に入れて進めていただきたい。

(3) 区役所組織改編と地域担当職員の配置について

(総務企画課長)

「まちづくりセンターを設置します」「まちづくりセンターの設置について」に沿って説明

(永松会長)

これに関して、ご質問ありますか。

(柿本委員)

地域担当職員のスーパーバイザーの役割はどこが担うのか。

(永松会長)

まずはやりながら調整するという点も多いと思う。地域担当職員の個人のスキルや個性にもよるだろうが、地域側も何を相談するかという点も手探りから始まるのではないだろうか。この制度がうまく回るように、双方がスキルを高めていく必要があるのではないだろうか。

(甲斐原委員)

これまでの花園総合出張所がなくなるのか？

(総務企画課長)

花園総合出張所はサービスコーナーに変わり、住所異動など届出業務を廃止して証明書発行業務のみとなる。

(甲斐原委員)

各種届出のサービスを低下させてでも、まちづくり活動の何をするためのまちづくりセンター設置なのか？
河川の問題など、具体的な個別の事案を地域担当職員に相談するとよいのか？

(総務企画課長)

地域担当職員は、担当部署につなぐ役目を担うこととなる。

(河村副会長)

区行政のあり方検討会では、行政の基礎的サービスを縮小することについて将来の人口減少社会に向かい行財政が縮小していく中で、職員がどのような関わりをすると地域に資するかという議論がなされた。どの総合出張所をサービスセンターにするかは、利用数などのデータを基に決定されていたという経緯がある。

(永松会長)

要するに、利用数などによりサービスセンターに縮小する所とそうでない所に振り分けされたということ。西区で言えば、花園総合出張所だけがサービスコーナーになるということ間違いはないか。

(西区長)

そのとおりである。

(上野委員)

まちづくりセンターと地域担当職員の制度に移行する目的は何か。ここに「地域における自主自立のまちづくり」と記載があるが具体的なイメージがわからない。

(西区長)

今回、総合出張所を廃止して地域担当職員を配置することとなったが、再編にあたってはマイナンバーカードの普及も勘案されたうえで、区役所から5 km圏内の総合出張所をサービスコーナーに移行するとし、その人員を地域担当職員に配置するもの。地域担当職員の役割は、総務企画課長が説明したとおりで、最終的には、自主運営ができる校区を目指すものである。

(上野委員)

自主自立とはどういう状態をいうのか。

(西区長)

これまで、行政がお手伝いをしながらまちづくりが進められているが、地域の方たちで運営できるような体制づくりを目指していくというもの。今回の地震で特に行政のできることの限界が明らかになり、地域力が非常に役立った。平時においても、地域力を高めておこうというもの。

(永松会長)

どういった地域にしていくかの具体像は日本にはない。委員ご指摘の具体的なイメージは行政自身も持っていないと思う。自分達で手探りで作っていくしかないだろう。

(河村副会長)

行政は縦割りだが、地域の課題は横断的だと思う。目指すところ是一緒で、皆で力を合せて問題解決しようというものだと思う。地域担当職員は、地域がやりたい思いを受け取って各課をコーディネートするようなイメージと思う。

(永松会長)

自立とは話が反れるが、効果としては、これまで各課にバラバラに相談していたことを、地域担当職員が必要な部署と調整をして、地域でこれまでは出来なかったことが可能になるという効果はあるだろう。

(河村副会長)

地域の方々がより動きやすくなるようなイメージだろう。

(永松会長)

上野委員が求めた回答を明らかにするには、自助・共助・公助を明確にしなければならない。自己の責任でやるのはどこまでか、ご近所などで共同してやるのはどこまでか、自助・共助でできないので行政がやるべきことは何かということが具体的に仕分けがされていないと分らない。ところが、日本の行政はどこまでが公助かが定かではないので、色々やってみて、個別に検討していかないと見えてこないのかもしれない。

(岩本会長)

地域担当職員は、どのように割り当てられるのか。現在、3校区が中学校単位で取り組みをはじめているので、考慮していただくと良い。

(永松会長)

それでは、最後の議題、来年度のまちづくり懇話会について事務局から説明をお願いします。

(4) 来年度の西区まちづくり懇話会について

(総務企画課長)

「熊本市西区まちづくり懇話会設置要綱」に沿って説明

(永松会長)

2年間、皆様には色々のご意見とご検討いただき、本当にありがとうございました。このメンバーでの懇話会は、これで最後となる。委員お一人おひとりから一言ずつ感想をお聞かせいただければと思う。

(塚本委員)

初めて懇話会の委員になり、西区役所の考えが身近に聞け、それを校区に持ち帰ることができたのが良かった。イベントは自分の校区でも実施しているが、今回の西区フェスタでは、地域からの出展、健康ま

ちづくり報告会、環境工場のイベントを同時に開催したことで、地元からの来場者もあり西区フェスタの広がりが見られたので良かった。地域に浸透していくことがまちづくりであることを実感した。地域担当職員は身近な情報提供者として、今でも貢献してもらっており今後も期待している。

(岩本委員)

西区フェスタと校区の行事が重複し、P T A や子ども会が動けなかったのが残念であった。西区の皆さんと仲良くなれた。特に西区フェスタでは、5人の委員の方の協力をいただいて感謝している。

(上野委員)

途中からの参加であったが、西区役所の地元にいながら懇話会やまちづくり事業の存在を知らなかった。広報が重要であることを実感した。新体制でも地域密着型としてこまめな連携をとって行きたい。

(中村委員)

自治会の会計担当であるため行政への陳情などを行ってきたが、地域の特色のある方と知り合えたことが良かった。地域差があることがわかり視野が地元から広がった。また、行政、市民、N P O 等、立場と意見の多様性に気付けた。

(下田委員)

河内・芳野の代表として4年間携わってきた。次のキーワードは連携かと思う。地域と行政の互いの理解を深めていくことが大事。まちづくりセンターについては、行政も地域も目的はひとつで、地域の活性化であり協働でやっていかなければと思う。河内・芳野は現在の河内まちづくり交流室との良い関係ができており、それを崩してまでまちづくりセンターを進める意味があるのかは疑問。新しいセンターと地域との関係がどうなっていくか見極めていきたい。

(末次委員)

とても勉強になった。その間、地震があり、人とのつながりや町単位での取り組みの重要性を知った。まちづくりの活動をととして連携が作れたので、災害時に人とのつながりがすごく役立った。このような場で情報交換をすることで人がつながっていくと実感した。ありがとうございました。

(子出藤委員)

小学校のP T A 会長として、色んな役員会を通じて西区のまちづくりの取り組みを伝えた。P T A に入ることで、高齢者が子どもを見守ってくれていることを知ったし、懇話会のメンバーになったことで、区役所が区民のためにまちづくり活動をしていることを知ってよかったと思う。農業をしており、西区は農産物をたくさん生産しているが、販売促進の点で弱い。その点についても今後取り組んでいただければと思う。

(柿本委員)

この2年間私が一貫して申し上げてきたことは、子どもをまちづくりの視野に入れて人工知能の提案である。平成27年度で実施されたワークキッズ(職業体験)の改良版として今後取り入れていただけない

かと提案したい。人工知能時代にどう対応するかについて、事業として取り組んでいただけないかと思う。今の子ども達が将来、職業をどう選択するかという観点から、人工知能の時代（半数以上が人間ではなく機械に取って代わっている）になっていると言われている。西区には、J R、官庁、マスコミ、山、海、農家などたくさんの題材がある。これから、A Iと共存していくためにも様々な西区特有の場を活用した職業体験を検討していただきたい。

（金森委員）

2年間お世話になりました。大変勉強になった。話を聞いたり委員の方がされているイベントや活動に実際に参加したりして、自分達の活動に取り入れることも出来た。自分達の地域の中だけでなく、つながりの幅が広がり、つながりの大切さも実感できた。まちづくりセンターの話で、自立という言葉が出たが、自分では自立というより共存と思う。周りの方と切磋琢磨しながら自分の地域も盛り上がっていくという姿勢で取り組んで行きたい。周りを巻き込むには、自分達がまず楽しむこと。楽しみながらまちづくりを進めたい。

（江藤委員）

西区の動きを知るいい機会となった。西区フェスタでは健康づくり報告会に参加後に観て回ったが、毎年少しずつでも改善しながら発展していける伸びしろのあるイベントだと感じた。次年度の西区まちづくり推進事業の一覧表で、子育てに関する事業の色付けがないことが目につく。まるで子どもに関する取り組みを全くやっていないような誤解を招くので、見せ方の工夫をお願いしたい。

（甲斐原委員）

「金峰望む華のあるまち西区」は大好きなフレーズである。コロボックルはN P Oであり、西区役所や地域団体と協働しながら、これからも華のあるまちのお手伝いをしていきたいと思っている。お世話になりました。

（大森委員）

これまで、まちづくりなど考えてこなかった。皆さんの話を聞き、もっと西区を意識して年齢とともに視野も広げて頑張らねばと自分の意識が変わった気がする。ありがとうございました。

（益田委員）

詳しく報告を聞く中で、西区を思う気持ちが強まった。みなさんと一緒に西区を盛り上げていければと思う。各種団体（自治協議会、青少協、体育会協など）の窓口が集約されるような動きがあってもいいのではと思う。

（林田委員）

私が提案した子ども職業体験事業が実現されたことがとても嬉しかった。スポーツ大会では、私の団体が関われ、子どもさんや高齢者の方の笑顔が見れ、知り合いになれて良かった。スポーツイベントを通じて多くの方とつながっていければと思う。N P Oをしているので、行政に頼らずに自立できるよう頑張りたい。

(内藤委員)

5年間お世話になって長かったという印象。再三申し上げてきたようにもっとマスコミを使って欲しい。社も社員も「地域とともに生きていく」というスローガンを掲げており、皆さんのお手伝いをしていきたい。今後も、メディアを活用した広報やボランティア活動など何かあれば声がけして欲しい。お世話になりました。

(河村副会長)

4月から静岡県浜松市の大学に移ることとなった。熊本には7年いたが、まちづくりに一生懸命取り組んでおられる皆様に出会えたことで成長できた。これからのまちづくりは、若い人達が楽しみながら関わっていくことが大事だと自分も思う。これまでの健康まちづくり活動を通じて、保健師と地域の方達との良い関係づくりを見てきた。まちづくりセンターも、地域との横のつながりができてフェアないい関係を作っていくといいと思う。健康分野において人の寿命に何が一番関係するかは、やはり人とのつながりであると言われている。地域内のつながりがしっかりしていると住民はいつまでも元気に過ごせると思うので、この懇話会から広がっていき、西区が次のフェーズに進んでいくのを見守っていきたい。ありがとうございました。

(永松会長)

最後に、私も懇話会当初から参加させていただいた。振り返ってみると、最初は区役所職員も委員も、この懇話会が何をやるのだろうというところから始まり、徐々に横のつながりや情報共有が図られ、委員と区役所の距離が縮まっていった。双方の協働の場となったのが西区フェスタであるが、委員の皆さんから反省の意見を出してもらい翌年に活かされるというように、年毎に実質的な活動になってきたと思う。新しい試みを色々やりながら、相互学習の場としても機能するようになってきたと感じている。

今後の地域担当職員の制度についても、最初は双方が手探りになるだろうが、委員の方には、担当職員をいかに活かすかという観点から接してもらいたいのではないかと思います。皆さん大変お世話になりました。

他にご意見はないか。なければ、進行を事務局にお返しする。

(総務企画課)

永松会長、ありがとうございました。最後に、西区長より一言ご挨拶申し上げます。

(白石西区長)

委員の皆様には、大変お世話になりありがとうございました。これまで2年間、皆様からたくさんの貴重なご意見を賜った。西区役所としても、年々まちづくり事業を充実させてきたつもりではあるが、まだまだ課題も多く検討すべきこともあると思う。西区はとても魅力あふれるまちであるので、めざす区の姿「金峰望む華のあるまち西区」の実現に向け、今後も頑張ってまいります。皆様、委員の立場を離れられても何かの形で西区のまちづくりに関わっていただき、ご指導、ご助言等いただければと思う。本当にありがとうございました。

閉 会